

中川根ふる里通信

= 第 14 号 =

編集・発行・モア・ラフ中川根
連絡先 〒428-03
静岡県榛原郡中川根町上長尾
中川根町役場 電話 990
ふる里通信係
郵便振替口座(名古屋)7-81556

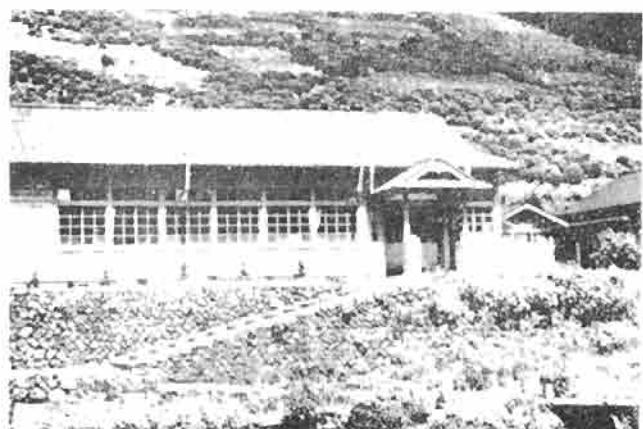
名瀑 不動の滝



不動堂の奥に、うっとうと生い茂る老木
に囲まれて流れ落ちる不動の滝。



徳山小学校 壱町河内分校



当時の壹町河内分校 德山村政誌より

毎年四月になると、旧小学校の校の校庭に桜の花が咲き、地区の人たちの目を楽しませてくれます。上級生が植え、自分たちがバケツで水を運んだあの苗木が、もうこんなに大きくなつたのを見ると時間の経つ事の早さを改めて思い知られます。

中川根町立徳山小学校壹町河内分校は、昭和四十三年三月に私たち四人の卒業生を送り出したのを最後に、町立下長尾小学校と統合になり、明治七年以来の長い歴史に終わりを告げました。当時最盛期には五十名近くもいた児童も二十名前後になり、複式学級どころか全学年一教室で学んだ事もありました。しかし、皆のいのいとしさ零困気の中で勉強・運動に励んでいました。そして『へき地の分校』といふハーディを乗り越え、みな自分の学校に自信と誇りを持っていました。

現在でも校舎は昔のまま残っており、だいぶ古いのがひとくなつて来ていましたが、夏休みなどには、少年団等のキャンプなどを利用しています。また毎年十月十日には、区の体育大会などで、普段区民総参加で運動会やバーべキュー大会などで、普段静かなグラントもこの日だけは音と交わらん。いよいよカーカーの行進曲が谷間に響きます。

当時は何かにつけ分校が区の中心でした。新年会、区の各団体の会合等、区の集まりには必ずといっていいほど分校が利用され、今風に言えば「ゴミティセセンター」としての役目を果たしていました。

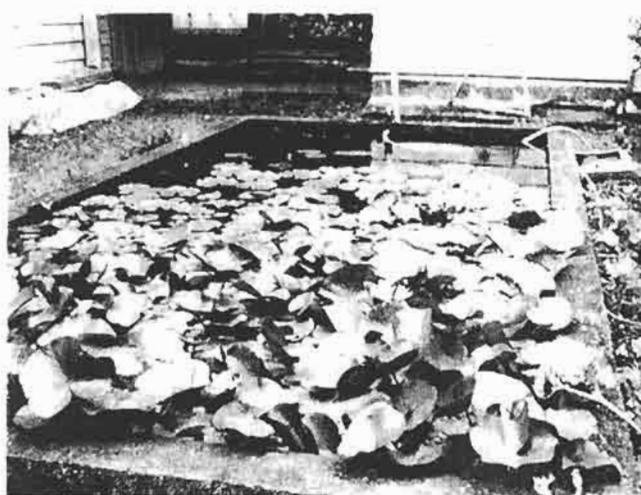
現在でも校舎は昔のまま残っており、だいぶ古いのがひとくなつて来ていましたが、夏休みなどには、少年団等のキャンプなどを利用されています。また毎年十月十日には、区の体育大会などで、普段区民総参加で運動会やバーべキュー大会などで、普段静かなグラントもこの日だけは音と交わらん。いよいよカーカーの行進曲が谷間に響きます。

昭和四十二年卒業

杉山 嘉英



最終回 母校は今



左
以前
明治
7年
7月

歴

史

勤務された先生方のお名前（敬称略）

「明治」山下時蔵・原田可一・望月照順
鈴木角八・太田由太郎・横山伊三郎
伊藤穣・池田定義

寺小屋教育
保泉庵（聖洞宗寺院・当時）の本堂を
仮教舎として創設
第二大学区・第四番中学区・第百番小
学大連合支校と称す。

校名を保明会へ改称す。

19 3 学校改革により、地元尋常小学校 壱

町河内分教室と改称。
河内分教室と称す。
徳山村立壱町河内尋常小学校とな
る。（区ごとに小学校独立）

25 8 徳山村立壱町河内尋常小学校とな
る。（区ごとに小学校独立）

昭和

5 19 4 22 4 16 4 31 9 42 4 37 29 32 4

校舎一棟新築落成（現教舎・統合され
るまで使用）
徳山国民学校 第二分教場と改称す。
徳山小学校壱町河内分教場と改称す。
町村合併により 中川根村立となる。
壱町河内分教と改称。

台風により 運動場又壞・整備拡張
を行う。
下長尾小学校と合併・統合す。

〔昭和〕山下良男・鈴木良一郎・青木茂
橋本むね・山本甚一・北島良実・渡辺す
加納敬三・上野辰夫・杉山田鶴子
八木芳雄・藻科つや・松下萬三
田地川鼎雄・田代川ミチ・板倉正二

板倉正二、

今回を持ちまして 中川根町に昭和四十年代

五十年始めまで 存在し 繼多の子供らと世に
送りあした母校の恩いお 又現在の姿をお送り
致しました。母校は今、ミニースは終了とな
ります。

現在 中川根町には 五つの学校があり 昭和
三十・四十年代に比べれば 生徒児童数は激
減してはありますか、明るく伸びやかに子供
の様子を見ることが出来ます。

川根高校・中川根中学校・第一小学校・中央
小学校・南部小学校の五校ですが、母校は今
の統編として 各学校を紹介していくことに
思ひます。

なお昭和二十二年の学校教育法により 新
制中学が誕生し、昭和二十四年四月から二十八年
三月迄の五年間 下泉地区に徳山村立徳山中
学校下泉分校がありました。建物は戦時中
利用してつくられたと言う事です。

こんなふるさとにしたい… 広報 中川根より

「ふるさとづくり住民 意識調査」

平成元年四月、町内の千人の皆さんにお願いして「ふるさとづくり住民意識調査」を実施しました。

これは「ふるさと創生」事業の実施に伴って行われた調査で、町内の十六歳以上の男女を対象にアンケート方式で答えていたとき、年齢では六段階の世代別(町内十五)抽出、男女五百人ずつが協力者でした。(内回答をいたいたのが六一〇人)

アンケートの内容は全部で二〇問、結果は次のようになりますが、中川根町の今の姿や未来の事など、真剣に答えていただきました。

問一、あなたは中川根町を最も良く表わすものは何だと思います。(複数回答上位三つ)

- ①お茶 364人 ★やはり「お茶」と「自然」が中川根のイメージに合っているよう
- ②自然 118人
- ③大井川 106人 です。水問題で大井川の再認識
- ④豊かな自然 524人
- ⑤犯罪や事故が少ない 262人
- ⑥環境がよくなったり落ち着きがある 259人
- ⑦伝統的芸能文化が残っている 191人

問二、あなたは中川根町で自慢できるものは何だと思います。(複数回答上位五つ)

- ①お茶 364人 ★やはり「お茶」と「自然」が中川根のイメージに合っているよう
- ②自然 118人
- ③大井川 106人 です。水問題で大井川の再認識
- ④豊かな自然 524人
- ⑤犯罪や事故が少ない 262人
- ⑥環境がよくなったり落ち着きがある 259人
- ⑦伝統的芸能文化が残っている 191人

問五、あなたは現在の生活に満足していますか。

- ・とても満足 32人
- ・まあまあ満足 235人
- ・どちらでもない 168人
- ・どちらかと言うと不満である 129人

・とても不満 31人

・わからない 14人

・無回答 2人

問六、あなたが現在日常生活で気掛かり・悩みとして感じていることはどのような事ですか。

- ①交通の便が必要 172人
- ②今の仕事では収入が少なく将来も不安 155人
- ③娯楽の機会や文化的刺激が少ない 71人
- ④近くに適当な勤め先がない 66人
- ⑤後継ぎがない・後継ぎの嫁がない 60人
- ⑥その他・無回答 86人

問八、中川根町の人口は十年後どうなっていると想います。(問七は問二・問三と重複しているので省略)

- ・今より少しき減 390人 ★六割以上の人が今より少しき減ると答えた理由は若者の流出と高齢化による減少(出生率の低下)から
- ・今ヒ更わらない 61人
- ・今ヒ半分以下 74人
- ・今より増える 12人
- ・わからぬ・無回答 73人
- ・理由は子供の減少(出生率の低下)から
- ・理由は人口の増減には様々な理由があると想います

問九、あなたはこれからも中川根町に住みますか。

・住むつもり 357人

・住みたくない 78人

・近いうちによそへ行くつもりだ 16人

・いすれはよそへ行くつもりだ 54人

・よそへ行かざるを得ない 23人

・わからない・その他・無回答 82人

・理由は勤め先と離れて住ませたい 187人

・子供の孝えにまよせる 283人

・わからぬ・無回答 100人

問十、あなたは後継ぎを中川根町に住ませたいと思いませんか。

・住ませたくない 40人

・うまい 294人

・住みたくなり 55人

・どちらともいえない 84人

・どちらとも思っていない 61人

・どちらとも思っていない 21人

問十一、あなたは中川根町に対する愛着を感じていますか。

・大変愛着を感じています 236人

・やや愛着を感じています 206人

・どちらともいえない 84人

・あまり愛着を感じていません 61人

・ほとんど愛着を感じていません 21人

問十二、あなたは中川根町に対する愛着を感じていますか。

・大変愛着を感じています 236人

・やや愛着を感じています 206人

・どちらともいえない 84人

・あまり愛着を感じていません 61人

・ほとんど愛着を感じていません 21人

問十三 中川根町には豊かな自然が残っていますが、あなたは今後どうしたらよ
いと考えますか。

・開発して、工場や住宅を増やすべきだ。 100人

・自然も大切だが、どちらかと言えば開発に重点をおくべきだ。 220人

・開発も必要だが、どちらかと言えば自然を守ることが大切だ。 181人

・自然を守ると同時に重点をおくべきだ。 37人

・どちらとも言えない。わからない。 無回答 72人

* 開発すべきだとする人が多いのは、ます人口減少等をくい止めなければ
と言ふ町の皆さんへの願いの表われでしようか。

問十三 あなたはどうしたら中川根町がよくなると考えますか。(上位五つ)

①道路の整備 150人
②職場を増やす 83人
③観光開発 65人
④工場誘致 56人
⑤娯楽施設とくらし 22人

* 多数意見の中のユニークな意見として
川根高校に工科技術系の設置
衣食住等と一緒にした広場の建設

問十四 あなたは中川根町の最も重要な課題は何だとお考えますか。(上位七つ)
①道路・交通 165人
②人口・高齢化問題 125人
③産業振興・雇用確保 123人
④後継者対策 59人
⑤生活環境整備 35人
⑥結婚問題 32人
⑦保健・医療問題 22人

* 大いにいわゆる全国の過疎に悩む地域の問題として共通しています。
く、それをお詫びしておるのみであります。

問十五 道路の現状・整備についてどう考えますか。
・道路整備は必要不可欠、積極的に進めるべきだ。 470人
・昔と比べれば随分改善されたのでもうよい。他に投資すべきだ。 47人
・道路の整備が進むと、便利になる反面、悪影響も出て来るのではないか
ではないか。 21人
・山間地の道路は莫大な経費ばかりの割に整備が進まないので、他の分
野に投資すべきだ。 19人
・その他・無回答 53人

問十六 バスの運行についてあなたはどう思いますか。

・交通弱者のためぜひ運行すべきだ。 249人

・地域のイメージアップのためにも、ぜひ運行すべきだ。 89人
・利用者は一部の人間に限られ、運行経費を考慮すると他の町民の負担が大
きくあからさますぎだ。 192人

問十七 町の人口は年々減少の一途を辿り止めがかりませんが、人口の減少につ
いてどう思いますか。

・全国的な傾向であり、減少はくい止めようかたく自然にまさる。 14人

・最も深刻な問題である、人口増加、流出防止策を講じなければなりません。
394人

・転入による人口増加策は町民の負担が大きくなる場合があり、積極的に
に進めるべきでない。 20人

・わからない。 45人

・その他・無回答 37人

問十八 現在中川根町は、直近一ヶ月内約二倍の高齢化率(五人に一人は六十五歳
以上)となりており、この傾向はますます進むと予想されます。この

・とについてどう思いますか。(上位五つ)
①高齢者が生産活動できる場を整備すべきだ。 156人
②生きがい政策を進めるべきだ。 112人
③介護が必要な高齢者のための老人ホームを整備すべきだ。 107人
④子供が面倒をみるべし。 63人
⑤高齢者の入浴施設をほのぼのべし。 62人

* 意見が三つに分れていて、①高齢者に浴場の場と②高齢者。面倒を見るのは、
とは云々、誰もが年を取ります、真剣に考えていいだければ、ならぬと思ひます。
新しく作物の栽培や、新しい生産技術の開発、充実が必要である。 220人

・生産基盤の整備や、補助事業の拡大が必要である。 118人
・後継者対策が必要である。 147人
・学園者の確保は第一が必要である。 64人

・その他・無回答 61人

問十九 地場産業は主に茶業と林業ですが、林業の低迷は全国的な問題として
おり、労働力不足、後継者がないなど深刻です。茶業においてはほとん
どの農家が兼業農家となり、農業外所得の方が多いのが現状です。

・近郊都市に比べて高すぎる。 52人
・あなたは町の賃価についてどう思いますか。
・高リーフの土地が欲しくても買えない。 56人
・決して高くない土地が少ないので、売買実例も僅かしかないので実情ですが
どちらともいえず。 137人
・わからない。 無回答 280人

* このアーティストから、ふる里の実状を想像してみて下さい。

郷土の偉人 諸井慶五郎氏

久野脇出身で天理教創教祖を務められた諸井慶五郎先生(故人)の「ふるさとへの言葉」を御紹介致します。

*郷土を偲びて 昭和三十七年原稿より

川根の久野脇を出てから今年は五十八年目になら、明治三十八年六月の始めて日露戦争が終末に近い頃であった。私は明治三十五年三月、上長尾高等小学校の三年を終え、当時大和の天理教中学にいた兄・諸田寅一郎に次で進学したい念をたどらせた。これに拍車をかけたのが、郡立櫛原中学校の新設である。

時折村の高台に登つては、大井の清流を見下したり、川とはさんでそびえ立つ山々を仰いだり、この山谷に遠く南に展開する大空を望見しては、勃々たる青年の志を燃やしたものだ。

次男坊の不利で文には却けられ家業の農事手伝も殆ど、身に着かず、間々とて三年を送つたが、たゞま祖父の口添いで、後の養父・諸井國三郎に見出され、始めて好学の目的を達し、それこそ、もとほろがことき意欲を傾げて不斷的努力を重ね、離郷後十三年の大正六年、東大の法科を卒業してもうい、直ちに養父の跡を継ぎ、以来、今日迄四十数年、現在天理教本部の要職を常び、数えて七十歳の春を迎えた。

近頃は、年に一回位帰郷するが、交通の便が開いて、生家の門口まで車で乗りつけられることが何よりも嬉しく、時代の御恩みに感謝している。

又郷土の有為な後進者達が逞しく材作りに精進せられた跡を道で

橋で、学校その他公共施設を通して見さしてもらい、帰る度に心の温りを新たにし、しみじみ政郷を持つているとの有難さを感じる。

又 生家の当主甥の諸田が(故・諸田幹雄氏、前中川根町長)村の教育委員だと

いうことも知っているので、その重要性から、村の為に一段貢献するよう自分の教育経験を聞かせたり、發奮を促してもらっている。近く奈良博物館の高村次長が同郷の御出身だと知られたので、近く御訪ねして、親しく郷土を語りあいだりと思っている。

*諸井慶五郎氏の略歴

明治二十一年三月、久野脇の諸田新左衛門氏の三男として生る。錦城中学(東京)、第四高等学校(金沢)を経て、大正六年東京大学法学部を卒業。直ちに天理教に入り、天理高等女学校長、山名大教會長、天理中学校長などと歴任。ふるさとへの言葉をいたいたい當時は、天理教表統領として、その今名は全国的に知られ、わが国の宗教界における重鎮的な存在である。

*余録

天王原遺跡発掘の訂正
発掘される皆様をまちがって載せました。
お詫びして訂正させていただきます。

(正)指導者 東海大学第一高等学校文琢淑夫先生
工業・村松冒義夫先生
作業者、東海第一高等学校工芸部の皆さん

○謹 島田高等学校的先生と生徒の皆さん

- * 後醍醐天皇のお墓ではない事は、現住、誰も知りませんが、……
- * 梅島の80才位の方に伺ったところ、すでに3~4回の祭典がされており、刀、刀、刀のつて、刀のつて、馬で、矢じりが出土されて
- * いるようです。8月1日から2週間位の
- * 日程で、教育委員会、島田高等学校の先生、生徒の皆さんで、祭典が行なわれます。古墳時代のものなり、南北朝のものなのが、それとも——?
- * 次回号で、その様子をお知らせします。

*** 高木先生を偲ぶ ***

私の学生時代に高木士太郎編纂の聖書大辞典という二千頁の本厚い有名な辞典がありました。

聖書を勉強するに日々事の出来ばい名著であります。地理、歴史、古代文化から現代文化等の註解。その他、あらゆる学問の結集です。規模の広大な事、よくもこのよつは立派な辞典をあらわされたと心から感服せずにほんとうありません。私はこの本を手にした時から、自分なら、学問の頂点に到達した様な気がした事を憶えています。大先生として仰き、聖書研究を樂しめました。戦争中大事に防空壕にしまっておりたところ、湿って使えなくなってしまった時の失望は、口で形容出来ませんでした。終戦後、ある時友人が持っている事を知りて、借りて、手写する決心をしました。何年かいつても、と家内にも手伝ってもらつて、毎日根気強く書き写しました。写すにびに高木先生の博識に敬服するのみでした。

昭和五十三年、機会あって私共家族は中川根町、徳山診療所に引越しました。そこで、はじめて高木先生が此の地方の出身である事を知りました。いよいよ来た、と心から喜びました。しかし、世界的にすぐれた学者を記念する碑も、事績を表わしたものも無いだけではなく、高木先生を憶えている人はさう多くないのに悲しくなりました。私がかつて英國留学時代に英人教授から「高木先生の辞典を持っています」と聞かれた事があります。歐米諸国にまで名を轟かして、高木先生がどうして故郷川根の人々に尊敬されていいのかよくやく、と位でした。聖書に、こういう句がありります。ヨハネ四四「予言者は自分の故郷では敬われない」。立派な人物だが、故郷は彼を顧みないつた、と言う事でキリストがなげていてる言葉です。川根の皆さん、大きな神の祝福を失つていいと心いませんか。国際的情偉人高木先生の思想、博識を少しでもいいから受け継ごうと思いませんか。さらに、先生が最善と信じ、選んだ宗教、キリスト教とは何かを追求してみようではありませんか。中川根小字里通信12・13号で、高木先生の偉大さを改めて知り、これもまた天にさし出す神さまのお導きと心から感謝して、ます。偉大なる学者、思想家、宗教家、高木先生を、川根の皆さんと共に、ほめたたえたいと思ります。

徳山診療所内 徳山キリスト教伝道所 牧師 入江 博

短歌五首

高鄉 金次守衛

★ 故郷回想

甲州の石和町、そとかづけれ
書を売る店の草屋根の家

★ 大鉄口マン

見遙かす大井の彼方大鉄の

白百合列車今日も往く

★ 故郷の山

甲府市の西には、だかる南アルプス

自根山峰吹雪する見ゆ

甲州の金峰山、そ床一けれ

甲武信三州視野に收めて

★ 伊東地震

海底の噴火に打たれ倒れたる

魚潜水で口開けて哭く



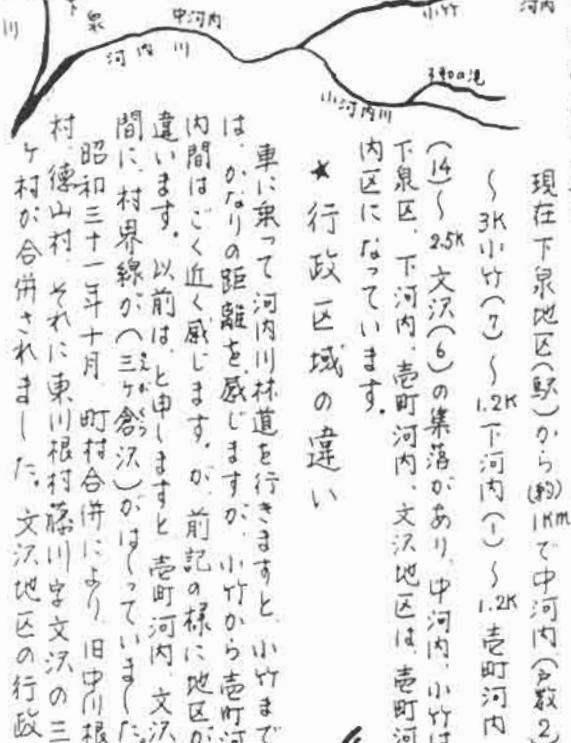
この地域の茶期は、中川根町でもおそいのが特徴です。一番茶と二番茶の間にあたる六月十六日(うら節句)町の文化財保護委員会委員の皆さんに同行させていただき、壱町河内・文沢地区を訪れてみました。梅雨本番とはいえ、豪雨の中、河内川の水量はかなりのものでした。集会場にはすでに地区的杉山・柿下・入屋、的場・横畠さんが集まって下りておりました。今回“母校は今”と合わせ、紹介致します。

★ 河内川流域

黒双連山に源を發した河内川は、下泉地区にて大井川に合流します。その間数多くの沢(支流)があります。第一の支流は小河内川・川根町笠間地区と樹線で接する山々を源として表紙の不動の滝(横沢)の水も合流します。その次は寺沢がありまます。黒双連山は別名本城山とも呼ばれ、山頂南西部斜面は大きな崩壊地。本城ナギとなつてあります。そのがし場が寺沢の水源となつております。

伊達右近将監景宗と戦って一三五三年南北朝の時代ですので、それよりかなり以前であった事は確かなようです。

★ 行政区域の違い



ふる里紹介 壱町河内・文沢・

★ ルート

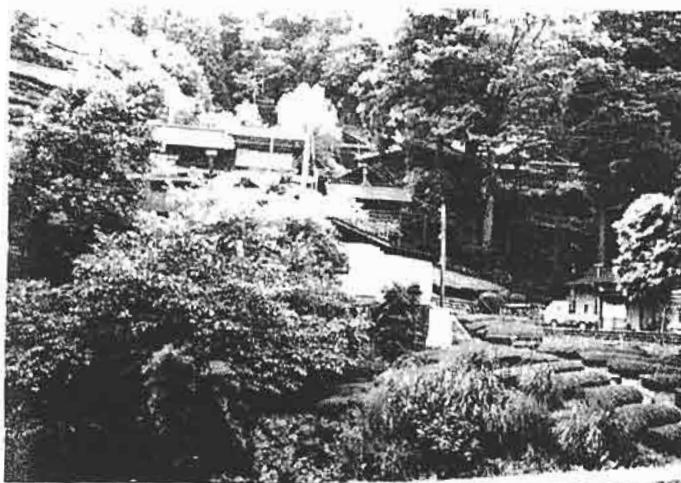
壱町河内の皆さん申しました、「つい近年まで(林道が開けるまで)車に乗つて河内川林道を行きますと、小竹まではかなりの距離を感じますが、小竹から壱町河内(14→2.5K)大沢(6)の集落があり、中河内・小竹は下泉区・下河内・壱町河内・文沢地区は壱町河内区になつています。

車に乗つて河内川林道を行きますと、小竹まではかなりの距離を感じますが、小竹から壱町河内内間はごく近く感じます。が前記の様に地区が違います。以前は、と申しますと壱町河内・文沢間に村界線が(えみヶ倉沢)がほりついていました。昭和三十一年十月、町村合併により、旧中川根村・徳山村それに東川根村藤川字文沢の三ヶ村が合併されました。文沢地区の行政

は、合併以前、長い間、旧東根村の管轄だったのです。現在集会場の横にある壱町河内に通つておりますが、高等科通学(中学)は、東川根・徳山へ行く者静岡方面へ出る者、それそれが事情により遠坂しなければ、婚礼等は別にして、両地区の結びつきは少なく、文化風習も、ややづつ違うている様に思えます。



* 燐烟から林業へ



文沢地区

明治二十一年に共有林の分割が行われたそうです。それまで共有林はリヤン(屋根と山くら)であつて、焼烟の利用度も頻繁だったと聽これます。その後焼烟サイクルの五年目に杉松(ヒ)の植林をしていた中、現在の林業とのつながりに思えます。それにも黒双連山を中心とした山安信郡から山づくりに入っていたと言わることは、やはり焼煙サイクルの炎が見られたのです。

森林の日ひとする、特に雨上りの木々の緑は大井川流域でも屈指の林業地域となつてあります。昭和四十九年、文沢の林下寺大さん(寺下寺大さん)は林産日本一に輝き、天皇杯をみごと受賞されました。林業は植林から成木まで、長い年月のかかる仕事です。樹木も人の生長と同じで、幼樹の頃から手をかけ育てなければ良い木に育たないと聞きます。又、山林所有地も広くなれば成り立たないと感じます。茶業したけ栽培も副業にして、同地区はみごとに林業地域となりました。

昭和五十年頃から現在まで林業不況は続いています。林業基盤の整った同地区はゆうく事はないだと思われます。森林資源の山林は空気の浄化、水源の養成、資材の供給を提供している事を忘れてはならないと思います。

* 德山城との関係

文沢の杉山さんは二十代続いた旧家で、城主土岐氏に仕えた家老の子孫がこの地に陪摺(ともだち)に伝えられ、本や新聞に記載されましたが、それを証明する文書も伝承も何も無い」と言われます。文沢の上の山に、四伝多田和と称する所があり、砦があるとと言われます。

たと言われます。



壱町河内地区

壱町河内の象が土岐氏をおっぱらうために、夜ふけに松明をたてて敵が来るのと想わせる陽動作戦を行ったとも語り継がれています。徳山城につきましては後号で特集を持ちた」とは、仙倉で人間の両手、肉體の五体といい、又空氣で万物を構成する地・水・火・風・空の五大を欠けるヒノタビ塔は、塔は右の様に五大を表わす塔。



* 寺沢村のこと

寺沢は、壱町河内分校より少し上流で河内川に合流します。文沢へ行く道路に寺沢橋がかかるおり上流五六ロMの所にかつて寺沢村があつたのです。現在壱町河内から寺沢そいに本城山に向つて林道が伸びております。すばらしくと村岸に茶畠や栗林が見えます。(写真参照)これが寺沢部落だったようです。

文化財保護審議会委員の藤田正義さんのお話ですと、以前故太田二郎先生より、寺沢村の話を聞いた事がありました。書き物を紛失したので残念な事です。地区的皆さんも、寺沢村の事を聞いている(部落があつたことを)この事でしたか、いつごろまで存在して、いつころ無くなつたのか、何故なくなつたのかは、皆判らない様です。中川根町史資料編で何か手がかりはないものかと調べてみましたが、文沢村山家文書に次の文書がありました。

文寶永拾四年丑四月二日(一六三六年)

駿州志太郡上藤川村文沢村御水帳

寺沢
五郎右衛門門下

中畑五郎歩五郎右衛門 中畑九歩 高之丞 新太夫

この文書に書かれている名前は
五郎右衛門 高之丞 松藏 沢之丞 新太夫
万千代 がありました。

水帳といつのは、換地帳のことです。竿帳、縄帳ともいつた。

上藤川村は現本川根町藤川の事。この換地帳には、分付百姓が一名もない。この百姓は、はやくから独立していましたことがわから。その後水帳外、古文書が町史に載つてはいなかつた。

寺沢村の戸数は二十戸位あつたと言われます。地区の人達は場所的にそなに建てられたかどうか、疑問視されていますが、文沢の森下さんは、寺沢より移り住んだと言われます。セイベイ屋敷跡と言つて名前で残っているとの事です。夏草も深くマムシもぬるく立入る事は出来ません。冬になつたら又訪れて見たいと思ひます。



* 風習

中川根で地区全体で風習を残している。尾呂久保健区がありますが、壱町河内・文沢地区は、各戸で家風として受け継がれている事が多く、歴史の深さを感じます。

行事別に紹介します。

①正月 正月の朝起きは戸主(男)がする。難煮もつる、年とりの夜風呂の水と出す。

元日夕火種はお月見の豆からで取る。

・壱町河内・松の丸を出す。十五日である。

・年とりの夜風呂の水と出す。

②節分 ヤイカガニのやり方

杉山家。旧暦月の数だけ作る。12か13か14になる。

・湯宿(ハナバ)ではなく、ヒイラギを作り、家の四隅に立てる。

・杉山家。旧暦月の数だけ作る。12か13か14になる。

・湯宿(ハナバ)ではなく、ヒイラギを作り、家の四隅に立てる。

・お盆。各戸、多少の違ははあるが、

(八月)・十三日、十五日はむかえだい(薪火)を、おどさき、

・十六日は、おくりだいとして、一台、土の上です。

・おのえだい(薪火)を点すのは夕刻。

・仏壇の前の馬は、さわづり、牛は、なすでつくり

・初盆の家だけ馬と牛、普通は牛がタラ、

・等の葉に、お洗米となすの細目切りとを供え、

・壱町河内では、十六日夕刻、各戸のお盆(おぼえ

ものと一緒に集め、たまつを作つて火をつり、

・川に流す様になり、各戸のお盆(おぼえ)を直接川に流すの習慣を改良している。

②庚申 壱町河内全体で回り番に庚申さんを行なう(年六回)十三年目には、お寺と呼んで、特別供養をする。

確かではないが、京言葉らしいのが日常使われていた。
さゆうす——きびしう、釜と——へつつい
ゆるい——ひじろ 奥——おくんてい
汁——おつし 石垣——ついしかけ

森林に囲まれ、清い水と空氣のある壱町河内文沢地区は、人情厚く、とても素晴らしい所です。

関東地区

中川根の会誕生しました。

ふる里通信第十三号にて、中川根町出身、又中川根町とふる里と思つている皆様の現地区のブループが出来たら素晴らしいのですが……と希望を書きまことに。五月中旬うれし便りが届きました。下長尾出身の呉川区(東京都)にお住ひの中野唯司さんから、中野さんはお忙しい中での準備大変だ、と思ひます。中野さんの御努力にむづかる為にも、当日沢山の皆様が御来場下さいね。中川根町からも町長はじめ出席する予定であります。又モアラブ中川根からも出席予定です。小る里通信係(ナレ)も皆様に達えられた旨を写してあります。

関東地区にお住まいの皆様へは中野さんより名簿などござります。中川根出身の方が意外に近く前にいらっしゃったんですねであります。中川根の電話連絡もありました。

今後、関東中川根の会がいつまでも町出身の皆様の心のよりどころとなることを期待します。又中野さんより地区別(町内)発起人推進の依頼がありましたが、従陽の人達に選んでもらいました。地区(出身)によって一人しか知らない場合もあり、直接選ばなかった方もあります。発起人になれた皆さんどうぞよろしくお發いします。

故郷を想う会

日 時 平成元年八月二十日(日)正午より

場 所

東京都品川区西五反田八丁目三十三
東京簡易保険年金会館

会 費

『ゆうばうと』(電) 口三・四九口、五一二
男子 売万円 女子 八千円

暑中お見舞申上げます

四季の里

お知らせあります

「ニートリイ」誕生しました。

ヘチマ水一口ロ%の

●ニートリイマイルドワーシヨンH
ヘチマ水十高麗人参十桑白皮エキス

●ニートリイエモリエントクリーム
358 120cc
3,000.- 1,800.-

中川根産のヘチマから生れた
ニートリイ。サロンに加えリームも出来
みずくし。素肌は貴女の宝物。

どうぞ一度おつかいに

なってみてはいかがでしょう。

発送も賜ります。

お電話お待ちしております



TEL.

0547-56-0542

定期購読のお願い

中川根小る里通信は有料発行です。

1部 テ共 150円

皆様の定期購読がいる里通信の発行を支えます。年間4回(季刊誌)の発行を予定しております。

今回で購読期間の切れる方に郵便振替用紙を同封致しますから、引き続きご購読をお願いします。

年間予約600円の御送金をお送りします。購読期間が切れて半年以上御送金の無い場合は勝手ながら

中止とさせていただきます。

※住所変更のおりも、葉書等でご連絡をお願いします。

※問い合わせ先 TEL 0547
56-0015

川 沢 節 子

※払込通知票

口座番号 名古屋(7)-81556
加入者名 モア・ラブ・中川根
いる里通信係

購読料の改正には御座りおり、どうぞお喜びます。消費税を含むお値段にかかる時期想続だったのですが、面倒をうけて皆様に御迷惑をかけた事になれば申しわけありません。今後より直上りさせていただきまして一部発行に丁度一四〇円位かかります。今までとは農業振興基金協会より四年前に、小る里キャンベーンの補助金をいたしましたが、今春の号までにはほとんど使ってしまった。今後からは、本当に皆様のご購読が発行の支えになります。一層紙面の充実に心かけてまいります。又小る里通信に御支援を下さっていらっしゃいます。方々本当にありがとうございます。昨年夏の号以前に(改定のお知らせ)会員の予約送金のあたせします。

皆様の料金は今後も一部一四〇円でお送り致りますが、ともお知らせします。

関東地区に中川根の会があつまつとお喜び申上げます。小る里通信をご購読されていらっしゃる方は二十才代からハナオ代まで男女様々お達です。又個人的にどこのおものお身で何とて電話番号はなどと言う事は一切お聞きしておりません。近頃は名簿等全員で買われる時代だそうです。その事からも、小る里通信は購読の皆様と郵便を通して結ばれている事が望ましいと考えます。

中川根ウッドリラスおろくぼ七月より宿泊が出来るようになり、毎日沢山の皆さんに来訪して下さいます。夏休み中(八月)は予約満席との事ですが、今後長く続くものでは是非皆様一度は訪れてみて下さい。クラーでは味わえない本物の涼感がたり、味わえます。

今回、新茶レポートが載せられなかつた事、お詫び致します。

今年の新茶は、凍霜害もなく良質のお茶がとれました。冬から春にかけて暖かく、雨も多かった為、新芽はすぐ伸びて、静岡県全体の茶期は例年よりもかなり早いわけですが、山間部の中川根は久野脇以外は、四月の長雨、日照不足から、土が冷えて、芽の伸びがおくれ、例年より数日早い位のものでした。日照不足から、味と香りも少し淡白に感じられました。今年は川根茶産地にとって、まさに天災の無い良い茶期だったと思ひます。お茶は付加価値の高い農産物だと思ひます。それは地元の皆さん、丹誠込めてつくっているからです。

おはい、川根茶、どうぞお召み下さい。

小る里紹介の時、うら節句(六月十六日)と申しますが、節句(月おくれ、六月五日)があり返し(返し)節句がつか節句(月)と考えたので、許書を引き、したところ該当がありませんでした。八月十三日から十六日はお盆で、八月二十四日から盆となります。こちらは許書に載つてしましました。

リ大辞林より 盂蘭盆

元来は中国で成立した盂蘭盆經に基づき、苦惱している亡者を救うための仏事で、七月十三日から十五日まで行なわれる。日本では初秋の靈験りと練習合し、祖先靈を供養する仏事となり、迎え火、送り火とともに、精勤棚に食物を供えるなどし、僧を招いて棚經と読んでもらう。

ふる里は、節句同様月おくれで、盂蘭盆はお盆で、二十四日は節句と同じ意味のから盆で、からは裏と書くのではないか?と考えます。

六月の初めから週二回全十五回の日程で川根高校でワーキング教室が開講され、講師は同校の先生方で、新聞折込チラシを見てすぐに申込みました。定員二十五名は一日で満員だったり、でも私は運が良かったなと思いつた。冬よりは、少し暖かくなり、六十代の男女、各年齢が集まり、記憶は機械(コンピュータ)にまかせて、操作方法の記憶が年とともに反比例して、講師の先生方を悩ませたのではないかと思いつます。七月二十四日には修業式もすませました。今後多方面に活用して行きたいと思ひます。小る里通信はお見苦しいのも知れませんが現行いたします。地域住民にも門を開いて下さる川根高校、とてもうれしい事です。